

## ■ 2018 年度秋季全国研究発表大会受賞者の紹介

経営情報学会では全国研究発表大会にて、各賞を受賞された研究者の表彰式を行っています。2018 年秋季全国研究発表大会では、ポスターセッションにおいて 25 組の発表があり、4 組の若手研究者が表彰されました。学生優秀発表賞に輝いたのは、阿部蕉太さん（岩手県立大学大学院）、中里成実さん（北陸先端科学技術大学院大学）と、富岡雄大さん（東京都市大学）、中村玄希さん（青山学院大学）でした。今回は、受賞された方に研究での工夫や苦労した点、今後の展望について執筆していただきました。若手研究者の皆さんには、とても参考になる部分が多いと思いますので、今後の発表に積極的に活用してください（所属は 2018 年 10 月 20 日当時のものです）。

○印の方が学生であり、受賞者となります

○阿部蕉太（岩手県立大学大学院）、後藤裕介（岩手県立大学）、南野謙一（岩手県立大学）、渡邊慶和（岩手県立大学）

「震災がもたらす労働市場への影響を考慮した雇用創出事業の効果分析」

○中里成実（北陸先端科学技術大学院大学）

「日本の銀行業界におけるプロクシカリティに関するシステム・ダイナミクスによる考察」

○富岡雄大（東京都市大学）、梅原英一（東京都市大学）

「DEMO による電子図書館のビジネスモデル」

○中村玄希（青山学院大学）、鈴木 啓（青山学院大学）、大内紀知（青山学院大学）

「ユーザレビューから探るメルカリの成功要因」

フォーラム誌編集委員会

## 震災がもたらす労働市場への影響を考慮した雇用創出事業の効果分析

阿部蕉太（あべ しょうた）

岩手県立大学大学院

### 1. はじめに

この度私が学生優秀発表賞をいただけたことは大変光栄なことである。本研究にご協力いただいた関係者の方々、また、発表の際にご助力や深い議論をいただいた諸先生及び参加者の皆様には厚く御礼を申し上げ、感謝する次第である。

### 2. 研究概要

近年頻発している大地震や豪雨などの大規模災害は生活インフラだけでなく経済にも大きな影響を与えている。しかしながら、大規模災害の発生を完全

に防ぐことは難しく、被災からの早期復興実現という視点での復興過程の地域住民への経済支援が重要である。このために適切な経済支援政策の構成が求められるが、復興過程においては、被害状況や地域の産業・人口構成、住民の価値観に基づく労働市場での行動が複雑に作用するため、復興支援の効果分析は困難である。

復興期間において注目されている経済支援政策として、CFW（Cash For Work）が挙げられる。CFW とは、被災地において復旧・復興のための労働に被災者自身が関与し、その労働に対して対価を支払うことで被災者の生活を支援する手法である（永松，2011）。CFW は 2004 年のインド洋津波

の被災地バンダアチェにおいてNGOによって実施され、その後2008年サイクロン（ミャンマー）、2010年ハイチ地震（ハイチ共和国）において実施され、日本でも、2011年の東日本大震災で「緊急雇用創出事業」として実施されており、被災者支援事業や仮設住宅運営支援事業などの取り組み事例がある。以上からCFWは大規模災害の被災者支援の方法として国際的に定着しつつあるといえる。CFWについては発展途上国での実施実績からいくつかの経験則が知られているが、先進国での実施実績は少なく、この経験則が東日本大震災においてどのような条件で成立するかについて理解は十分でない。以上のことから本研究では、当時の被災地域を対象とするシミュレーションからCFWの効果分析を行う。始めに、被害状況や復興過程における地域の産業構造変化、住民の経済状況の変化など、労働市場における企業や労働者への影響を考慮した上で、モデルの構築を行った。従来の研究では、労働市場の規模は市町村であると考へモデルを構築していた。しかしながら、住民の就職・転職支援を行っているハローワークは市町村ごとに設置されておらず、1つのハローワークが複数の市町村を管轄している。そのため求人情報はハローワークごとに提供されており、住民はハローワークの管轄地域内で就職・転職行動を行っていると考えられ、また、労働市場の評価指標である求人倍率・求人数・求職者数もハローワーク単位で集計されている。したがって、本研究では労働市場はハローワークの管轄と同規模であると仮定し、大船渡エリア（大船渡市・陸前高田市・住田町）、宮古エリア（宮古市・山田町・岩泉町・田野畑村）、釜石エリア（釜石市・大槌町）の3エリアを対象にモデルを構築した。次に当時の労働市場指標とのフィッティングによる妥当性を確認する。妥当性の確認には求人倍率と失業率を用いる。求人倍率については、厚生労働省岩手労働局一般職業紹介状況（2015）から、シミュレーション上の各エリアの求人倍率と統計の誤差が少なくなるよう調整を行い、失業率については、総務省統計局労働力調査（2015）の平成22年3月からの岩手県の完全失業率とシミュレーション上の完全失業率の誤差が少なくなるよう調整を行うことで妥当性を確認する。その後、各エリアの地域特性の違いがCFWの効果に与える影響やCFWの設計要因が

労働市場指標や要支援世帯の世帯収入に与える影響を分析する。

### 3. JASMIN 2018 での発表について

近畿大学東大阪キャンパスで開催されたJASMIN2018 秋季全国研究発表大会では、ポスターセッションで発表を行った。ポスターでの発表であったため、当日は構築したモデルや用いるデータについて細かく説明するのではなく、研究の本質を伝えるために重要なポイントを伝えることを心がけた。そのようなことを意識した甲斐もあってか聞いていただいた方々には自身の研究について深く理解して下さり、様々な分野の方々から多くの有益な意見いただき、活発なディスカッションを行うことができたと思う。また、当時はパラメータの調整が上手くいかず、望んでいる結果が出ない日々が続くことに焦りを感じ、私は自信を失いかけていた。そのため、この受賞は私にとって青天の霹靂であったが、その一方で、自信を失いかけていた私を勇気づけ、励ましてくれる、まさに救いの手のようなものでもあり、今後の研究活動の大きな励みとなった。

### 4. 現在の研究状況と今後の研究計画

今回の発表では、先行研究で構築されたモデルを拡張し、被災地域を3エリアに分割した。その上で、エリアごとに妥当性の確認を行うため、各パラメータの調整を行った。現在は、求人倍率と失業率について、実世界とシミュレーションの差異が小



JASMIN2018 秋季全国研究発表大会  
における発表の様子

さくなるよう、各パラメータを調整し、妥当性の確認を行っている。調整後は、CFWの設計要因がCFWの効果に与える影響を明らかにするため、いくつかのシナリオを設定し、シナリオ分析を行う予定である。また、経済支援政策の効果は地域により異なることが想定されるため、将来的には、有効な政策検討を実現するため、地域の関連情報と紐づいた形でWeb GIS上にシミュレーション結果を可視

化することを考えている。

#### 参考文献

- [1] 永松伸吾『キャッシュ・フォー・ワーカー震災復興の新しいしくみ』岩波書店、2011年。
- [2] 厚生労働省岩手労働局、“一般職業紹介状況”，2015。
- [3] 総務省統計局，“労働力調査”，2015。

## 日本の銀行業界におけるプロクシカリティに関するシステム・ダイナミクスによる考察

中里成実（なかざと なるみ）  
北陸先端科学技術大学院大学

### 1. はじめに

経営情報学会 2018 年秋季全国研究発表大会におきまして学生優秀発表賞を頂けたこと大変光栄に思っています。研究にあたり、ご指導頂きました神田教授、サポートいただいた関係者の方々、発表の際にご助言を頂きました諸先生および参加者の皆様に深く御礼申し上げます。

### 2. 研究概要

日本の銀行業界におけるプロシクリカリティ(Pro-cyclicity)について、システム・ダイナミクスの手法を用いて考察を行った。

プロシクリカリティとは景気循環増幅効果という意味である。例えば、景気が悪化し貸し倒れが増えると予想すれば、銀行は貸出を控えるだろうし、逆に景気が好転すれば、銀行は貸出を増加させると考えることは自然であろう。こうした銀行の行動が、景気を更に好転（もしくは悪化）させる、というメカニズムのことである。しかしながら、現在は景気拡大期であるにも関わらず、統計等によれば貸出は伸びておらず、景気の更なる上昇につながっていない。そこで本研究では、銀行の貸出と貸出に関する規制に焦点を当て、長期的な時間軸でのシミュレーションが可能なシステム・ダイナミクスの手法を

用いてモデル化を行い、複数のシナリオによる変化を観察した。

### 3. 現在の研究状況と今後の研究計画

もう一度学び直したいと思い、社会人を続けながら大学院に通っています。先端知識科学プログラムを選択していますが、受講できる講義には制約がなく、知識経営や知識創造などの経営学的な講義だけでなく、システム科学やゲーム理論など情報科学系の講義を履修できます。講義の中でシステム思考が紹介され、学部生時代にシステム・ダイナミクスに取り組んだことを思い出しました。システム・ダイナミクスは Holism の観点で課題に対する因果関係を観察することに長けた手法ですが、加えて時間軸による分析を容易に行える手法と考えています。

仕事は経営や IT に関するコンサルタントをしていますので、研究における興味の対象も企業業績の向上に資する研究になります。今回の研究は業界全体を捉えた研究ですが、これを企業単位でシミュレーションし、更に企業業績との関係性を分析することで、新たな発見が生まれるのではないかと考えています。また、知識マネジメント領域の研究室に所属していますので、知識マネジメントと企業業績の関係についても研究を進めています。

# DEMOによる電子図書館のビジネスモデル

富岡雄大 (とみおか ゆうだい)  
 東京都市大学

## 1. はじめに

このたびは、学生優秀発表賞を頂き大変光栄に思っております。本研究の調査にご協力いただいた方々に深く感謝いたします。また、ポスター発表におきましてご助言や議論していただいた先生方にも深く感謝いたします。

## 2. 研究概要

電子図書館とは書店等のプロバイダが公共図書館及び大学図書館に対して提供しているサービスであり、電子書籍 (electronic book) の貸出しや電子図書閲覧サービスを行う電子書籍プラットフォームである。電子図書館サービスのシステムは確立されつつあるが、植村ら (2017) が指摘しているように、公共図書館や大学図書館における電子図書館の普及率は決して高くはない。これには様々な要因 (図書館側の電子図書館に対する受入能力の問題、利用者

の電子書籍に対する態度など) がある。そこで、本研究では図書館側の問題に注目する。紙書籍と電子書籍の図書館スタッフの業務差異を DEMO (飯島, 2014) により分析する。これにより、図書館側の電子図書館普及の問題点を明らかにする。

そのために東京都市大学横浜キャンパス図書館事務に、電子図書サービスに関するヒアリングを行った。その結果から DEMO による業務プロセスのモデル化を行う。東京都市大学図書館の紙書籍と電子書籍に関する業務をモデル化することで、双方の図書館業務の相違を明らかにする。

図書館業務は、東京都市大学横浜キャンパス図書館の業務内容を扱う。図書館業務は、13の業務 (①資料の受入, ②資料の利用提供, ③資料の保存・管理, ④利用者の登録・管理, ⑤書架・館内環境の整備・管理, ⑥イベントの企画・運営, ⑦ web ページの管理, ⑧ユーザ教育, ⑨見学者対応, ⑩利用統計・調査への解答, ⑪スタッフの管理, ⑫学内資料の集積・発信, ⑬委員会) から成る。本研究では、紙書籍と電子書籍とでは業務プロセスが異なる①資料の受入, ②資料の利用提供を DEMO によりモデル化する。

大学図書館は、大学における学生の学習や大学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を有す。図書館の電子化を行うことにより物理的空間の活用が可能となる。これによ

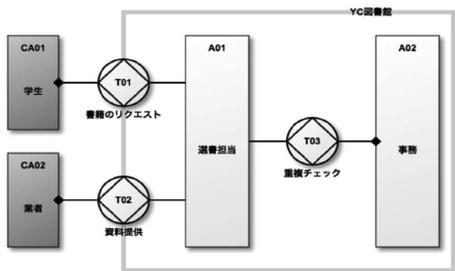


図1 紙書籍に関する選書業務

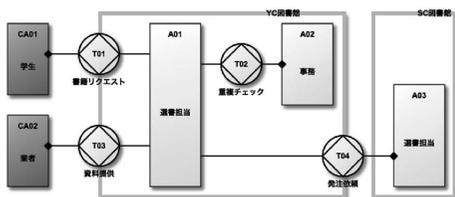
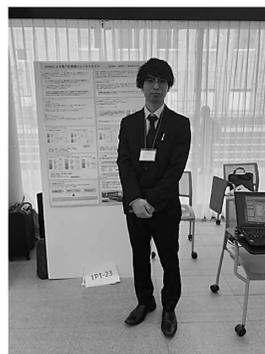


図2 電子書籍に関する選書業務



大会での発表の様子

り、ラーニング・コモンズの間を設けることができ本来の大学図書館のあり方である「学生の学習の場」という役割をより満たすことが可能となる可能性がある。

### 3. 今後の研究計画

第一に本研究は東京都市大学横浜キャンパス図書館における電子図書館サービスの事例研究である。選書業務などは東京都市大学図書館独特の業務である可能性が高い。今後は本研究を一般化するために、他大学図書館や公共図書館への調査が必要である。

第二にコスト面の分析が必要である。電子書籍は図書館業務の一部が不要になる。故に、TCO (Total

Cost of Ownership) の観点でのコスト比較が必要である。

第三に図書館の組織としての電子図書館など IT に関する能力測定を IT-CMF などを用いて行う必要があると考える。

### 参考文献

- [1] 植村八潮・野口武悟・電子出版制作・流通協議会『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2017』印刷学会出版部, 2017年.
- [2] 飯島淳一『DEMO—企業活動の骨格を可視化するモデリング方法論—』NTT出版, 2014年.

## ユーザレビューから探るメルカリの成功要因

中村玄希 (なかむら げんき)

青山学院大学

### 1. はじめに

この度は2018年度秋季全国研究発表大会ポスターセッションにて、学生優秀発表賞を頂き誠に光栄でございます。本研究にご協力頂いた関係者の方々、また発表の際にご助言や深い議論を頂きました諸先生および参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

### 2. 研究概要

近年、急成長している市場の一つがフリマアプリ市場です。フリマアプリのビジネスは、プラットフォームビジネスと呼ばれる「売り手」と「買い手」のような異なるユーザグループに、取引のルールやインフラ(プラットフォーム)を提供して、利益を得るビジネスです。プラットフォームビジネスのようなネットワーク効果が働く市場では、先発のサービスが有利とされてきました。ところが、現在、フリマアプリ市場では、後発のサービスであったメルカリが圧倒的な市場シェアを獲得しています。この成功した要因を解明できれば、プラットフォームプロバイダの普及戦略に関する新たな知見の獲得につながる事が期待されます。しかし、これまでは、新しい

市場で公開データなどが整備されていないこともあり、定量的な分析は十分に行われてきませんでした。

そこで本研究では、代表的なフリマアプリのユーザレビューのテキストデータを比較分析することで、メルカリの成功要因を明らかにすることを試みました。

まず、フリマアプリのレビューにおけるトピックを推定し、次に、フリマアプリごとに各トピックの評価値を算出し比較を行いました。

分析の結果、取引環境を整備することによりユーザに「安心」を与えることが、特に普及の初期段階において重要である可能性が示されました。また、普及が進んだ段階では、ネットワーク効果の影響が大きくなり、手数料の値下げに対してユーザはネガティブな反応を示すものの、普及の大きな阻害要因とはならなかった可能性が示唆されました。

### 3. おわりに

本研究の成果を踏まえ、今後は、プラットフォームビジネスにおいて、売り手と買い手のどちらをどのように優遇することが成功につながるのかを研究していく予定です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。